

第 6 領域 「通常学級における特別支援教育の実際 I」

古田島 恵津子

本共通必修科目は、毎週金曜日 5 限に実施した。授業者は長澤・古田島、受講者は 17 名であった。到達目標は、「特別支援教育の概要及び、特別支援教育の推進体制を構築する各自の役割を理解し、学習のユニバーサルデザイン（UDL）・合理的配慮・個別の教育支援計画を活用して授業計画を作成できること」である。

1. 授業の概要

1) 特別支援教育のシステムの理解

竹田契一ら(2012)監修『特別支援教育の理論と実践 I・II』（金剛出版）を主に用いながらインクルーシブ教育システム構築に求められる通常学校における支援体制や通常学級担任の役割、特別な指導の場との連携について学んだ。また、グループワークを通してそれぞれの立場で実践すべきことについてまとめ、発表をした。

2) 発達障害の理解と対応

日本 LD 学会編集「LD・ADHD 等心理的疑似体験プログラム」等を用いて、通常学級に在籍する発達障害のある児童生徒の心理的疑似体験を行った。苦手さのある児童生徒の気持ちを理解した上で、それぞれの児童生徒への有効な支援方法を話し合い、共有した。また、それを実践するために必要な教室環境や学習の進め方についても議論し、基礎的環境整備としての UDL や合理的配慮、個別の支援計画作成の必要性について理解を深めた。

3) 行動問題への対処方法

授業参加やコミュニケーションに課題を抱える児童生徒への対処方法のひとつとして、応用行動分析の基本的な知識、ソーシャルスキルトレーニングなどを用いた支援について学び、通常学級担任にも可能な支援方法について演習を交えて学んだ。

2. 次年度に向けて：授業改善のための検討の視点

多様な立場の院生が、授業計画を作成するためには、通常学校における特別支援教育に関する多面的な知識が求められる。これらを実感的に学ぶには演習を交えた丁寧な学びが有効であった。年間を通して目標達成ができるように授業計画の改善をしていく。